

1. 調査報告概要表

作成日 平成 19年 10月 16日

[評価実施概要]

事業所番号	(※評価機関で記入) 3470102884
法人名	社会福祉法人 可部大文字会
事業所名	グループホーム (山まゆ) フルーツハウス
所在地	広島県広島市安佐北区可部字根谷 162番地の2 (電 話) 082-818-6011

評価機関名	特定非営利活動法人医療福祉近代化プロジェクト
所在地	広島県広島市安佐北区口田南四丁目46-4
訪問調査日	平成19年10月6日

[情報提供票より] (H19年 9月16日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 14 年 6 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 7 人, 非常勤 1 人, 常勤換算 7.5	

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り
	4 階建ての 階 ~ 4 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃 (平均月額)	30,000 円	その他の経費 (月額)	23,500 円
敷 金	有 (円) ○無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円) ○無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食 280 円	昼食 450 円	
	夕食 450 円	おやつ 200 円	
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要 (9月16日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	1 名	要介護2	2 名		
要介護3	3 名	要介護4	2 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85 歳	最低 78 歳	最高 92 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	中岡内科、穴村歯科
---------	-----------

[外部評価で確認されたこの事業所の特徴]

やままゆは前に小川があり、後ろは山となっている静かなところに建てられている施設で、グループホームだけでなく、デイサービス、ショートステイ、特養、居宅介護サービスと高齢者介護を総合的に取り組んでいる施設である。グループホームは1ユニットと小さいが大きい特養に押されることなくグループホームの良さを逆に特養に伝えるような取り組みがされておる。入所された人たちの生活は個人の持つ機能を活かすように工夫されて居ることのような取り組みは今後大いに期待するものである。

[重点項目への取り組み状況]

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況 (関連項目: 外部4) 前回の状況を確認していないが、可部大文字会として取り組んでおられる各種事業がお互いに協力した取り組みとなっており、グループホームとしては1ユニットと小さいが、特養の多き事業に押されるのではなく、グループホームの特質をよく理解して、逆にそのよさを特養にも利用する努力が見られた。
	今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目: 外部4) 外部の人の意見を主任会議に出して内容をよく検討しておられ、それに基づいてフロア会議に持ち帰り、現状と意見の問題をよく把握して業務に活かされる体制である。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目: 外部4, 5, 6) 運営推進会議は家族、地域の人、包括が入った体制だ開かれており、家族の意見もよく出されており、これからの運営に役立つものとなっている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部7, 8) 家族の意見は常に聞きだす体制にあり、その声はホーム長に伝えられホーム全体で対応できる取り組みがある。
重点項目④	日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3) 地域とのつながりを施設全体で大事しておられ、山ゆまつりには地域のボランティアなど多くの人の参加があり盛大である。

2. 調査報告書

(☐ 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅰ. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	山まゆ組織全体の理念が地域密着を目指しておられる。その中でグループホームとしての取り組みはグループホームらしさを出して居られ、特別養護老人ホームに埋没するのではなく、逆にグループホームのよさを特養に求めている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホームの入り口に掲げており、フォロー会議で常に話し合っておる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の人たちの声かけで'山まゆ地域交流フェスティバル'はにぎやかにできている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の内容は主任会議(月1回開催)に出され話し合い、その内容をフロア会議に持ち帰られて各担当まで知らされ話し合っている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	センター長が中心となり運営しており、意見はよく出ている。その意見をフロア会議に提出し検討している。		

グループホーム(山まゆ) フルーツハウス

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市とは常に連絡をとっておられる。家族介護教室を行っておられ、区長の訪問もある。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	'ひだまり'を発行して家族に知らせると共に家族の来所時にはよく話し合っておられる。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が運営推進会議に参加して意見を述べている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	やままゆの中での移動があるがほかの部門に移っても声かけなどして馴染みのある介護をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月計画的に研修を時間内に実施しており、外部研修にも参加している。	○	外国人の研修を積極的に <u>受入れて</u> おられた。これからもこのような研修(社員以外の人の研修)を期待する。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	三入地区の3施設で集まって会議をしている。(包括介護支援センターの開催)		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	デイ。ショートの利用者がグループホームへ入っている。(山まゆにはデイサービス、ショートステイ、特養と高齢者介護の施設が整っている。)		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は入居者と家族のような関係を作る努力が見られ、他部門の人との付き合いができています。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は入居者の生活状況をよく知っており入居者の思いを配慮した日常生活ができるように心がけている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	センター方式での介護計画をしておられ、担当職員が計画し、皆でその内容を検討して計画を立てておられる。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者、家族と職員はよく話し合い、計画をたてている。なお職員はケアマネージャーをめざして勉強をしている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	居宅介護支援、デイサービス、ショートステイに特養と施設でサービスを行っているが、それらがお互いに協力した利用者のサポートを行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医と契約をしており、緊急時には携帯へ連絡して対応してもらっている。なお、施設内に3名の看護師が勤務しており、いつでも対応できる。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族と相談しており重度化のときの対応を同意書をとって行なっている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員はプライバシーの保護についてよくわきまえており、常に念頭において対応している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者が一人ひとりのペースで生活しておられる。共用空間の壁には頭の体操になる言葉がかかづてありそれをで読んで楽しんでおられる。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事時間はできるだけ入居者のペースに合わせるように努力しておられる。2階の喫茶には日曜日には自由に行くことができる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は決めているがその日に入れなかった人には別の日に入れるようにしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者が楽しげにカラオケをしておられた。作業療法士による音楽療法や機能訓練をとりいれている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や買い物に出かけるだけでなく、ホームの周辺を歩けるように工夫しておられる。また2階・1階にも出られる。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけずに常時見守り体制ができており入居者は自由に行動できるようにしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	全館が一体となった防災委員会を設置しており、消防署と連携して4階から避難訓練を実施した。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の摂取量は記録しており、不足のときは補う工夫がしてある。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間 (玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等) は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	昼間はできるだけ共用空間で生活できるように配慮している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には自宅で使用していたものが持込まれている。		